

四郷のこれから

時代の移り変わりと共に発展を遂げてきた四郷。平成27年(2015)から進められていた「豊田四郷駅周辺土地区画整理事業」が令和5年(2023)に完成し、利便性の高い活気あふれるエリアとなった。新たなステージに入ったといえる状況をどのように捉えているのか、今後の展望を含め語っていただいた。



生活に必要な施設が徒歩圏内に

◆梅村 これほどまでに魅力が上がり、価値の高いまちとなったことに驚いているところです。私も地権者の一人なので、計画がパルクするんじゃないか、途中で業者が撤退したらどうなるのか、そんな不安が一時はあったんですけどね。

◆梅村 国交省が掲げるコンパクトシティ構想の流れもあるでしょうね。郵便局も病院もスーパーも歩いていける範囲にあつて、非常に便利で住みやすいまちになった。

◆杉浦 昔、四郷地区は猿投町の中心地で、そのころの賑わいが戻ってきた印象がありますね。

◆磯村 今まで福祉施設や商業施設を誘致する話があつて、そのたびにみんな判を押しとるもんね。どれも実現せずにきたけど、今回の区画整理事業が初めて目の目を見た。しかも当初は宅地が中心で、高層マンションや大きな店舗が建つ計画じゃなかったんだよ。業者が主導して価値のあるまちづくりをしてくれた。もちろん、僕たちも協力したわけだけれど。

◆福岡(谷) 規制がかっているから、未開発の土地がいっぱいあつたもんね。タイミングもよかった。この辺りで工事が始まった途端、向こう側にスーパーや店屋ができて、思わぬ宣伝効果があつたというか、あれを区画整理事業だと思っている人も多いもんね。

◆磯村 相乗効果で両方ともすごい人だもんね。おかげで下古屋だけでなく天道や井上地区でもミニ開発が進んで、空き地だったところにどんどん住宅が建つた。

◆井口 確かに生活するには便利になりました。

◆梅村 でも、最初の頃はきつかったですけどね、地権者の方によく怒られて。周知したときも「先祖様から授かった土地をどうしてくれるんだ」「自分のところはどくなるんだ」とね。農家は米を作ると赤字の時代だから、農地としては持ちたくない。ほとんどの人は商業施設や公共施設になることを望んでいたと思う。

◆杉浦 天道地区は兼業農家が多かったこともあり、この事業についてもご理解していただいたと思っています。

◆福岡(谷) 賑やかになって思うのは、便利になったことで自分の子や孫の世代が住み続けてもいいと思ってくれるんじゃないかなと。

◆加藤 区画整理事業としてやったことがよかったんじゃないですか。地権者の方がそれぞれ切り売りしてさまざまな開発業者さんに渡ったりすると、こうした整った町はできなかったと思います。

整備が進む周辺道路

◆磯村 区画整理事業のおかげで周辺道路の整備が進んだこともありがたかったね。

◆福岡(信) 交差点の改良もそうだし、419号に右折レーンができることによって渋滞がかなり緩和されるので本当にありがたい。県道の整備も期待しています。

◆井口 住宅街なんかは抜け道に使われているところが多いので、心配ですけどね。また工事が途中のところも多いので、完成によって渋滞がどれくらい解消されるか…。

◆杉浦 中心地(商業地域)から少し離れてしまつと整備が行き届いていないところもありますよね。我々の年齢だと運転免許証を返納している人もいますので、歩道などの整備をしてもらえるとありがたいですね。

時間をかけて地域コミュニティーを育む

◆磯村 新しく来た人がどういう人なのか、ちよつとわからない。

◆福岡(信) 融合には時間がかかるだろうと思う。旧住民と新住民はPTAや子ども会などを介して知り合つていき、徐々に時間をかけて馴染んでいくんじゃないかな。

◆福岡(谷) 子ども会には入つてくれる？

◆福岡(信) すごく増えた。

◆磯村 8月の盆踊りはものすごくたくさんの方が来てくれたよ。

◆福岡(信) イベントをやれば人は来てくれるけど、果たしてそれがまちづくりや融合につながるか…。でも、来てくれるのはありがたいこと。「棒の手」もあるので、そうした行事や子ども会を通じて保護者同士が知り合つてくれたらいいと思う。

◆磯村 ほかの自治区と違って、こは「棒の手」という世代間交流できる場があるから本当にありがたい。

◆杉浦 天道は私が覚えていた限り1000〜1200軒くらいしかなかったと思います。それが今は9000〜10000軒くらいあると思います。この事業の話があつたとき、転入して来た方々が30〜40年ほど経つて同じ目線でまちづくりについて話ができる感じなんです。だから長い目で見ていかなきゃいけないだろうと思いますね。

◆加藤 何年かかるかわかりませんが、「棒の手」や学校や子ども会を介して自然に取れんしていきんじゃないでしょうか。ただ、昔のように全日の行事は無理ですね。

◆井口 僕はよそから来た人間ですが、ここに来てもう30年になります。いちばん思うのが、自治区の行事に参加する顔ぶれがずっと変わらないこと。うちの親父と同世代の方々が必ずお見えになるんですよ。たまには息子さんに「行っていい」と言ってもらえると新たな顔見知りが増え



座談会メンバー

- 〈左から〉
- ◆梅村利幸委員長(豊田四郷駅周辺土地区画整理組合理事長)
 - ◆福岡谷雄副委員長(豊田四郷駅周辺土地区画整理組合副理事長)
 - ◆杉浦克彦委員(豊田四郷駅周辺土地区画整理組合副理事長)
 - ◆磯村貴史委員(豊田四郷駅周辺土地区画整理組合代表監事)
 - ◆福岡信明委員(下古屋自治区区长)
 - ◆加藤勝委員(下古屋自治区副区長)
 - ◆井口太宏委員(下古屋自治区副区長)



て、輪が広がると思うんですけどね。

◆梅村 世代交代というのはなかなか難しい。さじ加減がね。

◆井口 公園の整備についてのワークショップには、結構若い世代が参加してくれましたよね。

◆加藤 皆さん、活発に意見を言ってくれましたよね。守っていくべき行事もありますけれど、それとは別に若い人たちの声を吸い上げる場、機会があるといいですね。

◆福岡(信) 磯村さんが最近「下古屋の環境を守る会」という自主的なグループを立ち上げたけど、若い世代からそうした動きが自発的に起きてくるかというと、疑問かな。

◆磯村 今ある組織を活用して活動を展開してもらえたらと僕は思っている。もちろんいろいろな考えがあるから強制はしないよ。ただ、間口は広げておきたいなと。

◆加藤 そうした自主グループがあることをもう少し宣伝してもいいんじゃないでしょうか。

◆福岡(谷) 自分の子どもを見ていると基本的に価値観が違うので、そういうのを押しつけても仕方ないと思う。ただ、ここに住んでよかったと思える、居心地のいいまちになつてくれればいい。もちろん、磯村さんみたいに働きかけをする人もいないとね。その気になつてくれる人もいるかもしれないし。

◆井口 若い世代、新しく来た住民の方にはいろいろな行事に少しでもいいから参加していただきたいですね。「参加しろ」じゃなくて、「来てください」という感じ。そうすれば、自ずとまちが変わっていくんじゃないかな。

◆梅村 まちづくりへの思いを四字熟語で表すと「温故知新」。古いものを尊び、新しいものを創っていく。それが、今いる人たちの使命ではないでしょうか。先人が強いリーダーシップを発揮して創り上げてきたまちを新しい世代が受け継ぎ、よりよいまちにしていってもらえたらと思います。